地震後に観測されたゆっくりとした 歪変化と地下水位変化 - 産総研の串本 津荷観測点の場合 -

Post-seismic slow strain changes and groundwater level changes in the case of the KST observation site of AIST

*北川 有一¹、板場 智史¹、松本 則夫¹ *Yuichi Kitagawa¹, Satoshi Itaba¹, Norio Matsumoto¹

1. 産業技術総合研究所地質調査総合センター地震地下水研究グループ

1. Tectono-Hydrology Research Group, Geological Survey of Japan, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

南海トラフでの巨大地震の短期・中期予測研究のために、愛知県・紀伊半島・四国の観測点で地殻変動・地 下水の観測を行い、特にプレート境界での短期的SSEのモニタリングに重点をおいて取り組んでいる。2019年 5月10日に日向灘で地震(M6.3)が発生した際に、産総研の土佐清水松尾(TSS)観測点において地震後に ゆっくりとした歪変化が観測されたが、地震の揺れに起因したTSS周辺の局所的な変化の可能性が高いと推測 された。TSSと同じく南海トラフのプレート境界の固着域に近い産総研の串本津荷(KST)観測点において同 様の歪変化が発生しているかどうか調査した。過去の紀伊半島周辺でのM5以上の地震や串本町で震度3以上 の地震の後の歪・地下水位の変化を調査したところ、KST周辺で発生した短期的SSEによる歪変化を5例および 地震後のゆっくりした明瞭な歪変化を1例見つけた。後者の1例では同時にKSTの孔2観測井戸の水位が地震後 に上昇していたことが分かった。これらの観測結果を紹介する。

キーワード : 歪、地下水、地震後の変化 Keywords: strain, groundwater, post-seismic change